

学校推薦型選抜

基礎学力試験 国語

(問題冊子)

＜受験上の注意＞

- (1) 試験中は試験監督者の指示に従うこと。
- (2) 筆記用具・時計以外はカバン等に入れてイスの下に置き、机の下に棚には何も置かないこと。
- (3) 携帯電話等のスイッチは切っておくこと。
- (4) 質問等がある場合には黙って挙手をする事。
- (5) 中途退場は認めない。(体調の急変等については、挙手をして申し出ること)
- (6) 試験開始の合図があったら、問題冊子(15頁)と解答用紙(1枚)の枚数を確認すること。
- (7) 受験番号(算用数字)と氏名は解答用紙に記入すること。また、受験番号欄のFF・CCは該当するいずれかを○でかこむこと。
- (8) 解答はすべて解答用紙に記入し、提出すること。解答欄は表と裏の両面にある。
- (9) 解答用紙にある破線の四角内には、何も記入しないこと。
- (10) 解答は鉛筆書き(シャープ・ペンシルも可)とし、楷書で丁寧に濃く書くこと。
- (11) 試験時間は60分である。

基礎学力試験 国語（学校推薦型選抜）

（注） 解答はすべて解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。

一次の文章を読んで設問に答えなさい。なお、設問の都合で一部省略または改編した部分がある。

二一世紀初頭、デジタル化のなかでアーカイブがデジタルアーカイブへと拡張するなかで起きているのは、文書館、図書館、博物館、美術館、資料館といった仕方で様々に分化してきたアーカイブ機関のデジタル上での統合化です。もともと図書館の他の諸施設からの分離・発達は、一五、一六世紀以降の印刷革命、つまりそれまでの手書き文書の世界から活字本の世界が分かれて大発展していくなかで生じました。活版印刷によって爆発的に増えていった本が、やがてまとまって収蔵されていったのが図書館です。

〈中略〉

他方、ミュージアムも最近まで、芸術作品を収蔵する美術館と歴史的な資料や文化財を収蔵する博物館、それに自然標本や機械のサンプルを収蔵する科学博物館にはつきり分かれていました。しかし、これらの美術館・博物館は、収蔵しているモノのレベルでは異なっている、デジタルコンテンツとしては扱いに差がありません。今も異なるのは、美術館では著作権の扱いで厳しい条件がつくことがあり、博物館ではそれほど大きな問題にはならず、科学博物館では著作権はほとんど問題にならないという点でしょうか。

1、こうした既存のアーカイブ施設の境界線の解消以上に重要なのは、デジタル技術の進展によって、それまでコレクションの蒐集対象ではあっても、組織的な収蔵はほとんどなされてこなかった資料、たとえば写真や映像、録音、脚本、設

計図、楽譜、プログラムなどのデジタル形式での保存と活用が容易になったことです。図書のように大量にフクセイされてきたわけでもなく、美術作品のようにオリジナルであることが特別の意味を持つわけでもないこれらの資料は、これまで公共機関の蒐集対象の外に置かれてきました。ところがこれらの資料が、デジタル化の進展によって、新しい記録知の基盤として注目されているのです。

このような蒐集対象の拡大は、ジャンルの拡大にとどまらず、アーカイブの概念自体も変化させていきました。旧来の美術館や図書館が収蔵したのは、すでに完成された美術作品や出版物です。博物館の標本では、やや異なる事情もありますが、多くはすでに完成された工芸品や道具、資料です。ところがデジタルアーカイブは、アーカイブ化される資料の範囲を拡張しただけでなく、作品が完成に至る諸段階、たとえば脚本や設計図から関連する証言まで、知の形成プロセス全体を保存・再現していくことを可能にします。「アーカイブ」という言葉は、直接的にはある個人や組織、活動がその生涯や存続期間を通じて生み出した記録の総体を指します。しかし、この言葉の語源であるギリシャ語の「アルケイオン (ἀρχεῖον)」は、ポリスの最高権力者「アルコン (ἀρχων)」の居所という意味を含んでいました。つまり、アーカイブとは「権力の館」でもあるのです。少なくとも古代社会では、記録の力を握った者、その国の歴史についての編纂能力を有した者が、最高権力者でもあったからです。アーカイブと統治は端緒から深く結びついていました。

2 アーカイブは、上からの可視化、監視、記録、言説化といった意味合いをそもそも含んだ言葉です。古代から一九世紀に至るまで、こうして記録され、保存される記録とは、基本的には書かれたものとしての文書でした。実際の社会は、書かれたものという以上に語られたことや聞かれたことによって動くこともしばしばでしたが、アーカイブに残されるのは、あくまで書かれたものの総体であつたのです。

〈中略〉

デジタルアーカイブは、そのような潜在的なコミュニケーションの次元を一気にケンザイカさせます。⁽²⁾図式的に整理す

ば、そこには、一方は公式的な記録性、他方は非公式的な記憶性を極として、少なくとも三つの異なる層が存在すると考えられます。まず、最も公式的な記録性に近い層は、文字で書かれ、文書として残された記録の層です。しかし、その文字的な層の下には、より一般的な記録の層が存在します。そこで保存される記録には、録音や写真、映像、地図、電子データなど、あらゆる形態の視聴覚的記録が含まれます。さらに第三に、これら二層の下に、人々の語りや思い出、集合的に記憶された出来事の層が残ります。この層にあるものは客観的な証拠とはなり得ませんが、それでも人々は何らかの仕方でも過去を記憶し、語り直しています。最近では、この層の記憶をオーラルヒストリー（注）^bとして引き上げる試みも様々になされています。もちろん、語られた記憶が常に正しいとは限りませんが、思い違いや忘却、嘘も含めてアーカイブとして価値があります。

以上で述べた非公式的な記憶性と公式的な記録性は、より一般的な言葉では「暗黙知」と「形式知」と呼ばれています。私たちの知識には、様々な具体的なふるまいややり取りと一体化した暗黙知の次元と、それが言語化され、記録として定着されていた形式知の次元があります。アーカイビングとは、この暗黙知の次元の活動やコンセキを基礎としながら、それらが形式知の次元に言語化され、記録化され、さらには目録化されることで結びつけられていくプロセスです。それは私たちが、私たち自身の歴史を自覚化していく実践でもあり、その効果として、自分たちの活動が検証され、時には方向修正もされるのです。

3、すでに説明した「アーカイブ＝権力の館」という語源が含意するように、公式に記録された過去と、非公式の、さらには集合的に記憶され、語り継がれてきた過去の間には抗争的な関係が存在します。つまり、書かれたもの、記録されたものと語られたもの、記憶され続けているものの抗争、形式知と暗黙知の抗争、もっと広く言えば、意識と無意識の抗争です。これこそ私たちの歴史の、そして同時に知的創造性をめぐるフロイト的な大問題です。つまり、歴史には記録に残されない、語られもしない無意識の次元があり、そのような次元が実は歴史を突き動かしてきたのです。そんな大問題にここで深く立ち入ることはできませんが、重要なのは、「アーカイブ」概念には、すでに書かれた記録の蓄積というだけでなく、これか

ら語られ、書かれるかもしれない過去の無意識の記憶の層までもが含まれていることです。したがって、アーカイブはそれ自体の内に抗争を抱え込んでいます。

このアーカイブの、つまりは抗争を内部化した記録知の重層性が、記録知と集合知の関係をダイナミックに変化させていくことになるのです。はなはだ図式的ですが、図1^cをご覧ください。

(吉見俊哉著『知的創造の条件 AI的思考を超えるヒント』)

(注) オーラルヒストリー…重要な出来事に関わった人たちの証言の記録。

問一 傍線部(1)～(3)のカタカナを漢字に直しなさい。

- (1) フクセイ
- (2) ケンザイカ
- (3) コンセキ

問二 空欄

1

3

に入る語として最も適切なものを、次のア～カからそれぞれ一つずつ選びなさい。

ア. なぜなら

イ. しかし

ウ. 結論として

エ. つまり

オ. さらに

カ. すでに

問三

傍線部 a 「これらの資料」について、その具体例として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア. 親が子供の成長を記録するために誕生日毎に撮影した写真

イ. 芸能人が SNS に投稿した私的な写真に対するファンのコメント

ウ. 小説家が作品を書き上げるまでの期間に書いた日記やメモ

エ. 大統領が退任後に自身の半生を記し出版した回顧録

問四 傍線部b「思い違いや忘却、嘘も含めてアーカイブとして価値があります」について、その理由を述べた文として最も

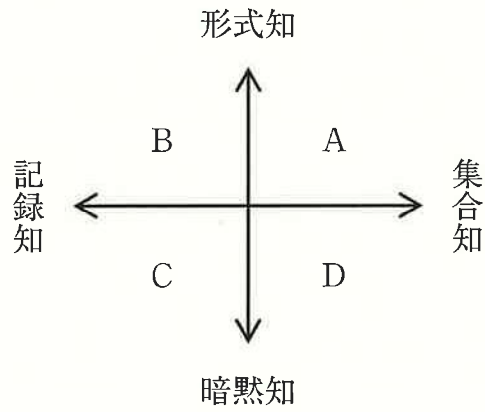
適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

- ア. アーカイブすることは、時の権力者が自身の行った業績を後世に正しく伝えるために行うことだから。
- イ. アーカイブすることは、私たち人間が自分たちの活動を自覚化し、検証するために効果的なことだから。
- ウ. 過去の思い違いや忘却、嘘が記録されることで、現在が正当化され、歴史が進歩していることの証明となるから。
- エ. 過去の思い違いや忘却、嘘が記録されることで、人間が無意識の次元から解放されていることを理解できるから。

問五

傍線部c「図1」について、筆者は「図1」として次のように示している。本文の内容を踏まえて「インターネット上の情報」を「図1」のA、B、C、Dの四つの象限のいずれかに位置付ける場合、その位置付けとして最も適切なものを、後のア、イ、ウ、エから一つ選びなさい。

図1



ア A
イ B
ウ C
エ D

問六 筆者はこの本文の後に「AIやデータサイエンス、コンピュータのパターン認識による未来予測は、このような抗争的

な循環のプロセスを持ちません。つまり、それは歴史を持たないのです」と述べています。AIなどの未来予測が歴史を持たないことの理由を、本文中の語を用いて、解答用紙に示した書き始めの文に続けて句読点も含め四五字以内で説明しなさい。

二次の文章を読んで設問に答えなさい。なお、設問の都合で一部加筆または改変した部分がある。

抽象化、汎用化を経て、もはや「能力」は 1 レベルに入っている。そう私は感じています。テストでいい点を取り、よい学校へ入る。そんな分かりやすい「学力」から、気づけば「人間力」という何かを言っているようで何も言っていない、中身がよく分からない「生きる力」などの「能力」養成へ、という系譜を辿ったことは、教育社会学の研究から見てきました。それが今や「センス」や「美意識」「リーダーシップ」「アントレプレナーシップ（起業家精神）」、はたまた「ウェルビーイング」などなど、「能力」次第で人生の取り分を決めると豪語するわりには、何をもってそれが高いのか・低いのかも分かんなければ、仮に測定・評価され、「あなたは『リーダーシップ』が足りない」と言われたところで、何をどうすべきかよく分からないものが 2 してきています。「ウェルビーイング」なんて、もはや「イルビーイング（注一）」もあるのかよ！とツツコミたくなるのは私だけでしょうか。人間は調子がよいときもあれば悪いときもあるのです。それをもコントロールできることを求めるのは、神の領域ではないでしょうか。

加えて昨今では、「機嫌」なんてのも、おっかない（注二）なあとと思って世論を眺めています。機嫌よくいろ（注三）、とは言うものですが、いつ何時も、となると、ことばの響きとは裏腹に非常にマッチョな話。他者や自分の機微に気づき、心を痛めたり、それに対して何かせねばと心を燃やすことや、たとえ上手く行動できなくてもメラメラと闘志を燃やすことなどなど……しかめっ面になってしまふときだって、誰の人生にもあります。そんなときですらも、「機嫌よくいろ」と言うのは、相手を黙らせるだけではないでしょうか。神学者で東京女子大学学長の森本あんり先生も『不寛容論』の中で「『相手を心から受け入れ、違いを喜びなさい』というポストモダンのお説教」と表現しており、誠に 3 が下がります。

その不寛容さ、非現実さを批判しようものなら、それすらも「だからお前はダメなんだよ」と言われそうなのも、^a 実におっかない。社会問題を深刻に捉える、真剣な解決を目指すこと自体が忌避⁽¹⁾されているくらいすらあるように私は思うのです。

「怒らない技術（注四）」なども結構なことです。個人がいつもご機嫌で、目くじら立てないことが推奨されてしまうと、本来見直されて然るべき社会の構造や政治的な問題はどうなってしまうのか、とても気がかりです。

このようにして、人として当たり前の感情すらも個人のコントロール下に置かれ始めている「能力」。あれが必要、これが必要と、要請されることには終りがなく、個人は「能力」の獲得に向け、

4

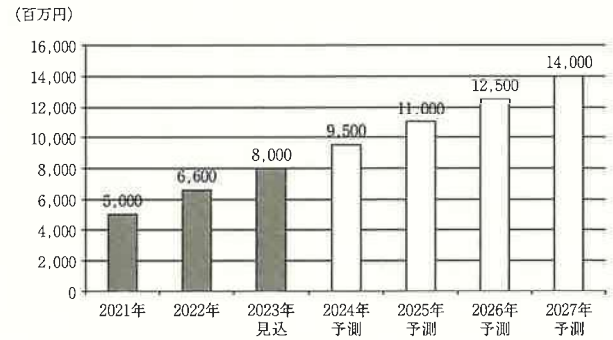
。真面目であればあるほど、自分の責任・問題であると考え、構造的な問題からは目を逸らさせる格好の逃げ口上になっているとも言えます。これでは体制側は当然、「能力主義」を手放そうとしません。²⁾人々の側も、プロローグの一家（注五）のように、薄々疑問は持ちながらも、当たり前のように社会の仕組みが「能力主義」的につくり込まれすぎているため、従わない手立てはそうそう見当たらないのです。

X

政治的な「人間観」の「設定」を受け、それに沿った教育が生まれ、さらにボタンを引き継ぐのは（個人に内在する）「能力」を商業化する「能力開発」「人材開発」業界である。これは自戒を込めて初作（注六）でも書きました。

例えば、「能力開発」「人材開発」の分かりやすい主戦場の一つといえば、社員がどんな思いや状態で仕事をしているかを探る、「従業員エンゲージメント調査（注七）」の市場ではないかと思いますが、図1のような市場規模推移と未来予測が公開されています。

図1. 従業員エンゲージメント診断・サーベイクラウド市場規模
推移・予測（矢野経済研究所，2023）



注1 クラウドサービス提供事業者売上高ベース

注2 2023年は見込値、2024年以降は予測値

（勅使川原真衣著『働くということ「能力主義」を超えて』）

（注一） イルビーイング：ウェルビーイングの対義語で繁栄、幸福や健康などの欠如を指す。

（注二） おっかない：主に東日本で使用されることばで、「怖い」「恐ろしい」と同義。

（注三） 機嫌よくいろ：秋田道夫『機嫌のデザイン』（ダイヤモンド社、二〇二三年）など。

（注四） 怒らない技術：嶋津良智『怒らない技術』（Forest2545新書、二〇一〇年）。

（注五） プロローグの一家：本書に登場する4人家族のこと。立場や生活は異なるが、それぞれの道で必死に「選ばれる」と嘆いている様子が描かれている。

（注六） 初作：著者の勅使川原真衣は、東京大学大学院教育学研究科修士課程修了後、外資系コンサルティング会社を経て組織開発の専門家として独立し、働き方などに関する著者を多数執筆している。初作は『能力』の生きづらさ

をほぐす』(どく社、二〇二二年)。

(注七) 従業員エンゲージメント調査：企業が従業員の仕事への熱意や組織への貢献意欲を把握するためのアンケート調査のこと。

問一 傍線部(1)、(2)の語の意味として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選びなさい。

(1) 忌避

ア. 災難をさけること

イ. 喪に服してすごすこと

ウ. 遠慮してさけること

エ. 嫌ってさけること

(2) プロローグ

ア. 物語の主題を暗示するための導入部分のこと

イ. 登場人物が相手なしに独りで言うセリフのこと

ウ. 二人以上が交わす会話の部分のこと

エ. 文章の巻頭に置かれる引用部分のこと

問二 空欄

1

4

に入る語として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選びなさい。

ア. 溜飲りゅういん

イ. 台頭

ウ. 神格化

エ. 右往左往

問三

空欄

X

に入る次の(A)～(D)の文の順番として最も適切なものを、後のア～エから一つ選びなさい。

(A) お気づきの方も多いかもしれません——「能力開発」「人材開発」業界です。

(B) 「能力」に基づく「選抜」は、政治的プロパガンダ一つでここまで流布したわけではないのです。

(C) 「能力」の急所について、考察を重ねる前に、もう一つだけ、とある業界による熱烈な「能力」称揚の実態について、述べておきます。

(D) ああもうがんにがらめすぎる！と嫌気が差してきたかもしれません。

ア. (A) ↓ (B) ↓ (C) ↓ (D)

イ. (B) ↓ (C) ↓ (A) ↓ (D)

ウ. (C) ↓ (B) ↓ (D) ↓ (A)

エ. (D) ↓ (C) ↓ (A) ↓ (B)

問四 傍線部 a 「実におっかない。」について、その理由を述べた文として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

い。

ア. 本来見直されて然るべき社会の構造的な問題を考えなくなるから。

イ. いつでも「機嫌よくいろ」と言うのは、相手を黙らせるだけだから。

ウ. 他者や自分の機微に気づき、心を痛めたり、闘志を燃やしたりしなくなるから。

エ. 不寛容さ、非現実さを批判すれば、それすら悲観の対象になる可能性があるから。

問五

次のア～エは、本文には記載されていないが原典から抜粋した文章を一部改変したもので、筆者が図1を引用した理由について述べていると考えられる。図1を引用した理由を示すものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア. 「能力」という仮構的な概念を疑うどころか、有る大前提。しかも、時代の変化に対応する国民であるためには、相応の「能力」獲得に懸命になることは当然のたしなみであるかのごとく。

イ. 「あなたにはまだまだ足りないものがあるのです」と指摘する販促方法ほど有効なものはなく、「能力」においても、何でも、現代のあるゆるデータを見れば一目瞭然でしょう。

ウ. 学校の次は職場をはじめとする労働の現場が火付け役となり、誰もが「選ばれる人材」になれる日まで、「能力」論の自己増殖は果てしなく繰り返されるのです。

エ. 人材育成に対する投資意欲はむしろ高まる方向にあり、政府はまだまだ有能な個人の育成に大変意欲的なことがよく分かります。

問六

二重傍線部「体制側は当然、『能力主義』を手放そうとしません。」について、「体制側」とはどういうことか。本文中の語を用いて、句読点も含め四五字以内で説明しなさい。

